

北条氏館(国指定史跡)(伊豆の国市寺家守山)

国指定史跡。北条氏は恒武平氏の流れを汲み、この地(北条)に移ってきたのは北条時政の祖父(時方)の頃と推定されます。時政の父(時家)が初めて北条氏を名乗り、伊豆北条を本貫の地としました。

時政は娘政子が源頼朝と結ばれたことを機に、一族の命運をかけて頼朝の旗挙げに加担し、鎌倉幕府の創立からその運営にいたるまで重要な役割を果たしました。

鎌倉幕府ナンバー2の地位である執権を世襲するようになって、拠点は鎌倉に移ったが、その間も本貫の地を忘れることはなく、北条館は維持されていたと思われます。

発掘調査の結果、建物の柱穴や中国産の陶磁器片が大量に出土し、その量は他の遺跡に例を見ません。
伊豆の国市観光協会による

